

施設機能毎の今後の方向性を定めるにあたっての考え方

2016年3月に策定した「公共施設等総合管理計画（基本計画）」では、これまでと大きく異なる社会環境においても、財政的な理由から単に施設を縮小・削減していくのではなく、経営的な視点にたつてこれまで以上の効率化を図るとともに、将来にわたって必要なサービスの維持向上や新たな価値を付加することで都市の魅力を高めていくため、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための基本的な方針を定めました。

再編を進めるにあたって、将来を担う世代に負担を負わさないため、経営的な視点を持ってこれまで以上に徹底した効率化を図ることはもとより、これからも町田市が豊かで魅力ある都市であり続けるために、いかに時代にみあった新たな価値の創出を実現していけるかが重要です。

- 人口減少
- 少子化・高齢化の進展
- 高度成長期に整備した多量の建物の老朽化
→ 財源不足

- 価値観・ニーズの変化
- 都市間競争に負けない
「選ばれる・選ばれ続ける」
- 「住民の福祉の増進を図る」

経営的視点

無駄のない徹底した運営コストのスリム化と、サービスの内容・価格・提供主体・財源調達方法の適正化など、時代の変化に対応した自治体経営

新たな価値の創出

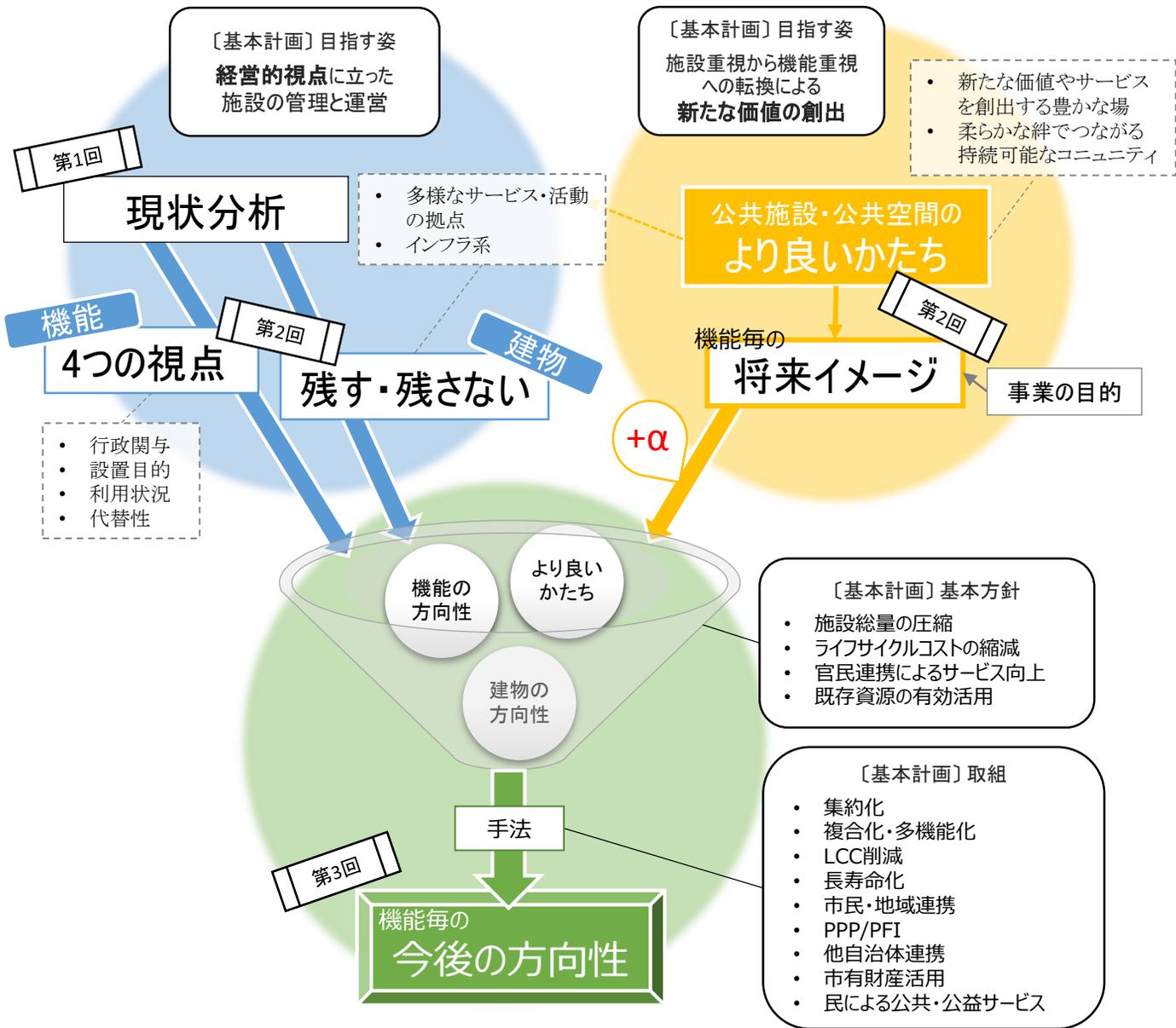
建物整備を軸とした考えから脱却し、多様な主体とともに、いかに人々が交流し、多様な活動を生み出していくかということを重視することで、新たな魅力を創出

将来を見据えた長期的な視点
前例踏襲ではない発展的な考えや取組

再編における今後の方向性

将来の町田を担う世代に負担を負わせることなく、都市としての魅力を高めていくためのあり方。
基本方針で示した具体的な取り組みをどのように実施していくのか。

〔計画の中で示している、各構成要素の位置づけ〕
機能毎の今後の方向性へどのようにつながっているか



今後の方向性の考え方

- 「機能」…4つの視点から、機能の基本的な方向性を定める。
- 「建物」…残す建物・残さない建物に分ける（「より良いかたち」の実現につながる多様なサービス・活動の拠点となりえる建物等を残す）。
- 「より良いかたち」…新たな価値の創出につながる機能毎の将来イメージ（再編による+の効果）

↓
基本方針に沿って、機能毎に適切な手法を選択し計画的に再編を行うことで、これまでと大きく異なる社会環境においても、将来の町田を担う世代に負担を負わせることなく、公共施設・公共空間のより良いかたちを実現する。